



発行責任者

病院長

岡野友宏

編集責任者

広報委員長

高橋浩二

〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1 TEL 03-3787-1151

ホームページ: <http://www.senzoku.showa-u.ac.jp/>

巻頭言

歯科保存科(歯内療法)・科長 松本 光吉

“人間が人間らしく生きる”と言う事はどういう事でしょうか。短い抽象的な言葉で言えば我が国の憲法で定められている“健康で文化的な生活を送る事”ではないでしょうか。しかし、残念ながら人間が生きる上で基本となる健康的な生活すら出来ない国が世界中に沢山あるのが現実です。何故このような現実があるのか、何故この現実が迅速に改善されないのか。私は海外に行くたびに心を痛めて来ました。欧米、日本等の先進国ですら貧富の差がありとても十分とは言えません。米国では本当に貧しい人の為の医療費の補助制度がありますが大方の国民は保険会社の保険に入っています。余裕の有る会社では保険料の一部を負担しますが歯科の保険料が高いため歯科の保険に加入していない会社が多いのが現実です。治療費は専門分野で著名な先生に治療を依頼すると目の玉が飛び出る程の治療費が掛かります。米国の専門医は経済的に豊かで社会的な地位も高く尊敬されています。日本でも最近は収入が多い人が尊敬の対象になって来ましたが米国と日本とは価値観の基準が異なるのです。米国の歯学部学生が最後に行く患者さんでの歯科治療の実習は無料で経済的に余裕のない人の協力を得て行われています。日本の歯科病院とは異なり大学の歯科病院には経済的に余裕の有る患者さんは来ません。大学の教授は勿論大学では治療はしません。個人的な診療所を市内に持ち特別な患者さんだけ治療しています。私は米国に行くまでは民主的な平等な国家を想像していたので驚きました。北欧等では広い範囲で保険が有効ですが国民の税金は高く消費税等を加えると所得の約60%が税金になると言われ医師等有能で高額所得者は外国に流出しています。有能な先生を見つけるのが大変で日本のように簡単に薬を出したり入院させてくれないとの事です。ドイツ駐在員の方が膀胱癌の手術を受けたところ国の保険が有効な病院よりも私的保険の有効な病院の方が優秀な先生が居て設備も良く私費料金は保険の料金の2.5倍までに制限されているとの事でした。ドイツの歯科治療は簡単な治療は国の保険が有効ですが入れ歯などは保険が適応されず私

費料金になり貧しい人は容易に入れ歯を入れる事が出来ません。

発展途上国では近代的な歯科治療を受ける事が出来る人は裕福な階層の人だけです。歯の痛みにも耐え自然と歯が抜けるまで辛抱強く我慢するしかないのです。勿論、入れ歯を入れる事が出来る人は少数です。人は生まれた時は皆同じなのに生まれた国や家庭、その後の人生により何時の間にか差が生じてしまいます。以上のように諸外国の国の保険制度に比べれば我が国の保険医制度は優れています。しかし、せめて病気の時だけでも設備の整った優れた先生の多い病院で治療を平等に安心して受けたいものです。軍事費や無駄な道路の建設費を節約すれば簡単に出せる金額です。政治の貧困が最大の原因です。国民の幸せを大きく左右する重要な仕事をする人には国家試験が科せられています。政治家になる為の国家試験を是非設けるべきですが我々国民も無駄使いは止め節約すべき事は節約し自分達で出来る事は自分達で実行すべきです。

何はともあれ健康第一です。病気にならないように予防の知識を養いましょう。規則正しい生活を送り食後の口腔清掃を欠かさない。間食や深酒の習慣を改善する。嫌な事は極力避けて楽しい事を沢山するように心掛けストレスを最小限とする。“何事も程々、中庸が肝心”です。

今月も部署紹介、歯科医療最前線などをお楽しみ下さい。

平成21年3月吉日



歯内治療科 紹介

1. 診療科の名称について

保存科と言う名称は歯を保存する診療科から来ています。治療法の専門化により国際的には保存科は歯の表面に生じる齲蝕の治療を専門とする歯冠修復科、歯の中や根尖部に出来た病気を治療する歯内治療科、そして歯の周囲の病気を治療する歯周治療科に別れています。私達の教室は歯内治療科に属しますが歯の外傷についても研究していますので外傷歯、歯痛治療科と言う診療科名を付けて来ました。私の退職により講座から独立して4月1日から歯内治療科と言う名称になります。

2. 診療科の特徴について

診療科の専門は歯の中や根尖部に出来た病気が原因で生じる歯の痛みの治療を行っています。水に染みる程度の軽い痛みの場合は鎮痛消炎剤やレーザーを使用して歯髄を保存します。自発痛や打診痛が出ている場合は原則として歯髄を除去する抜髄法を適応します。歯髄の死や不適当な抜髄法により根尖部に病気ができ自発痛、根尖部の発赤、腫脹、咬合痛、打診痛等がある場合は根管を拡大、清掃後殺菌消毒し気密に充填を行う感染根管治療を行います。以上のような治療の他に、長年外傷歯の治療法とレーザー光線による歯科治療について基礎的、臨床的な研究を行って来ましたので、これらの分野の治療も行っています。特に歯科に於けるレーザー治療は世界に誇れるだけの治療実績があります(図1、2、3)。



図1 保存科外来



図2 教授診察



図3 レーザー治療中

3. 医局員について

常勤医は現在、渡辺、木下、増田、山田講師、川中、石井助教、小林、高松、森川、宮沢、宮崎、大場、中田員外助教、照井、伊達卒後研修医、池本研究補助員、ブラジルからの留学生Minamisakoと私の計18名の家庭的な教室で、教育、研究、診療に頑張っています(図4、5)。

4. 学内外、国内外の活動などについて

医局員は教育、診療、研究や学内の各種委員会の他に学外の各種委員会の顧問、会長、理事、評議員、委員として多忙な日々を送って来ました。国内の学会では日本歯科保存学会、日本歯内療法学会、日本外傷歯学会、日本歯科用レーザー学会、日本レーザー歯学会、昭和歯学会など、国外では国際歯内療法学会(IFEA)、国際レーザー歯学会(ISLD)、国際外傷歯学会(IADT)、ヨーロッパレーザー歯学会(ISOLA)、アジア太平洋レーザー学会(APISLD)、各国の学会からの招待講演などで活躍して来ました(図6)。
(科長 松本 光吉)



図4 祝賀会



図5 国内学会出張



図6 国際学会講演

レーザー光線の原理は1905年ドイツのアルバート アインシュタインによって予言され1960年アメリカのセオードル メーマンにより始めて発振された集光性に優れた人工の光です。その後の研究により各種の元素、分子を組み合わせる様々な波長の光を発振する事が出来るようになりました。その結果、軍事兵器、計測器、光通信、金属の溶接や切断、外科手術、近眼や白内障、そして歯科治療にも応用されるようになりました。私達の教室でも30年程前からレーザーによる歯科治療について基礎的、臨床的な研究を積み重ねて来ました。その結果、様々な歯科治療に応用する事が可能になりましたので紹介します。

1. 虫歯治療の際、従来の麻酔や切削器具を使わずにレーザー光線で悪い部分だけを除去して修復する事が可能です(図1)。
2. 歯の周りの炎症を起こした歯肉を出血させないで除去する事が出来ます(図2)。
3. 歯の中をレーザー光線で拡大、清掃、消毒、殺菌する事が可能です(図3)。
4. 冷たい水に染みる歯の痛みをレーザー光線で緩和する事が可能です。
5. 口が開き難い時にレーザー光線を当てる事により開き易くなります。
6. 色が変わった歯肉を綺麗にする事が出来ます。
7. 色が変わった歯の色を早く白くする事が出来ます。
8. 口の中に出来た腫瘍を除去する事が出来ます。
9. 口の中に出来た口内炎の痛みを緩和する事が出来ます。
10. 歯を抜いた後にレーザー光線を当てると痛みや腫れが少なくて済みます。

今まで困難であった大臼歯の咬合面の窩洞形成も短時間で可能になった。
5W, 11Hz, 550mJ/pulse, 約2分



図1 虫歯のレーザー処置

重症症例へのレーザーの応用

治療方針: 炎症組織の除去に全力を尽くす

炎症が軽減すれば、出血、排膿、口臭、動揺も軽減する:30歳、男性



図2 歯周病のレーザー処置



図3 歯の中のレーザー処置



【定年を迎えて】 管理課 課長 志賀 耕二

今年3月末日をもちまして、医・歯・薬・保健医療の四学部を擁する医療系総合大学である昭和大学を定年退職致します。昭和46年入職以来38年間の永きに亘る在職中には、それぞれの職場に於いて悲喜こもごもの思い出があり感無量であります。とりわけ私にとって当院は開院当初から関わりをもち医事課・管理課と通算約24年間勤務し思い出深く、振り返ると開院準備・コンピュータ導入時に苦心したこと等、走馬燈のように色々と脳裏に浮かんできます。歯科医療においては予防と術後の管理が重要であると確信しております。当院は歯学部附属の病院として安全かつ質の高い医療の提供と社会に求められる歯科医の育成、先進的な臨床歯科医学研究の推進と地域歯科医療の中核病院としての役割を担い「診療・教育・研究」の三つを柱として、患者様の立場にたった医療を実践し、真心のこもった医療をスタッフ一同目指しております。私が大過なく勤務することができましたのも、ひとえに皆様の温かいご支援のたまものと深く感謝致しますとともに、心より厚くお礼申し上げます。



お知らせ 歯科病院広報委員長 高橋 浩二

1. 平成20年度歯科病院病院長表彰について



本年度の表彰者は、休祭日、早朝、深夜を問わず、入院患者様の医療管理に活躍された阿部淳子先生(歯科麻酔科)、患者様への懇切丁寧な指導が評価された松原こずえさん(歯科衛生士)、日頃の鍛錬が評価された当院の誇る女子自衛消防隊[大森さゆり先生(補綴科)、渡部陽子さん(歯科衛生士)、中村玲子さん(医事課)]でした。

受賞された皆様、おめでとうございます。

2. 歯科病院オープンフォーラム開催について

本会は院内の歯科医師とコデンタルスタッフ、事務職員のみならず、地域の歯科医師の先生がたや患者様をも対象とした講演会です。今回はその第1回として、「健康を守り育てるためのメンテナンスコントロール」＝すべては患者さんのために＝と題して、山形市で開業されている佐々木英夫先生(本歯学部1回生)が講演されました。

お口の健康、からだの健康のために予防歯科がいかに重要であるかを様々な視点から解説され、諸外国のトップレベルの歯科医療の現況報告を交えながら熱い講演は2時間以上に及び、その後の質問も多く、聴取者の誰もがまだまだ聞きたいという余韻が十分残る中、拍手喝采で無事終了いたしました。

第2回「昭和大学口腔ケアセンターの活動と基本マニュアル、クニリカルパスによるケアの標準化」は、3月24日に開催されます。皆様、どうぞ奮ってご参加下さい。



編集後記

松本先生、志賀課長、長年当院のためにご尽力下さり本当に有難うございましたお二人のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

(K.T記)

